

市民との対話事業 **市長とふれあいトーク**

実施日時	平成 24 年 8 月 2 日 (19 : 05 ~ 20 : 10)		
実施場所	東下組地区生活改善センター	参加人数	34 人
参加対象	東下組地区壮年会・青年団、下条地区振興会		
市側の出席者	市長 子育て支援課主任		
	<p>【懇談要旨】</p> <p>1. 発言者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この地域に若い人が住み続けることができるように、集落内の小学校付近に宅地を作り、分譲してはどうか。実際に宅地ができたなら住みたいという希望もある。 <p>A. 関口市長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば企業誘致などで、売れていないものは新潟県内にもたくさんある。税金を投入したのに事業効果が上がらないのは、行政としてはなかなか厳しい。 ・中山間地域には絶対頑張ってもらいたいと思う。若い方にそういうご希望があるというのは、我々としてもありがたい。場所等どこが最適なのかなどはあるけれど、皆さんの相当固まった思いと感じた。行政と一緒に具体的な所に踏み込んでいってもいいのではないか。 <p>2. 発言者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育料が下がってとてもありがたく思っている。 ・芸術祭を見ていると、田舎暮らしに憧れる都会の人が多くを実感する。宅地分譲の計画が夢で終わらずに進んでいって欲しい。 <p>A. 関口市長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東下組小学校の「もぐらの館」はすごく良かった。学校をうまく活用していただく事は非常に大事。今、農産物加工をやっていただいているが、是非それをうまく広げていただいて、あそこを十分活用いただきたい。 <p>3. 発言者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙之山の県道が、残り 400 メートルのところまで改良の見通しが見つからない状態である。市長から県に強く働きかけてもらえないか。 		

A. 関口市長

- ・今日枯木又にも行ったが、いよいよ最終局面。東下組の皆さんがこれだけ頑張っているから早くしてくれと言わなければならない。われわれも頑張る。

4. 発言者

- ・十日町のウリは「田舎」であり、今、「田舎」というフレーズが受けている。都会から移住者を呼び込むために、シティプロモーション事業として、十日町を「人生の楽園」としてアピールし、その中で東下組地域をモデル地区としてはどうか。今回の私たちの要望を、市長にはうまく活用していただきたい。

A. 関口市長

- ・例えば、せっかく下水道を整備するのなら、皆さんの分と外からの皆さんの分を用意するのはいいと思う。皆さんが求めるものと都会の生活者が求めるものとはちょっと違うかもしれない。そういうものも色々勉強しなければいけない。

5. 発言者

- ・現在の地域おこし協力隊員の任期が満了する。地域の農産物の販売等の様々な問題にも一生懸命に取り組んでくれた。後任の隊員がこれらを受け継いでくれる人をお願いしたいと思っている。